

実践七三十一研修報告

2016.9

中野貴嗣

セミナーを通して

今回セミナーに参加させていただき、初めての体験をすることが多くできたことが非常に有意義な体験となった。

セミナーは講義を聞いて講義の内容を自閉症の方の協力していただき実践する3日間の内容です。私のチームは特別支援学級小学校6年生の男の子に協力をしていただきました。

児童の協力者への関わりは初めてで当初は何から手を付けてよいのか全く想像できず、パッとみただけでは介入する要素を見つけられなかった。

協力していただいた児童には、今回のセミナーはお仕事実習とお伝えして、一般の会社をイメージして色々な仕事や職場内の係りなどを自立して行えるように設定されていました。

最初の課題（環境を整える）

与えられた課題はポットの水の補充とお菓子の補充を介入なく行ってもらったことだった。

初回の躓いていたように見受けられるポイントは

- 1、ポットを開けた際の湯気が熱く怖がっていたこと
- 2、お菓子の補充は初回職員の指示で行ったが単独で行おうとした際何をどれくらい入れるのかわからない様子だった。

メインの課題としてはその2点に着目して準備を行った。



ポットの対策

写真のように置かれているポットの後ろに提示を作り、軍手を履いてもらうことで恐怖心を取り除こうと考えた。

提示に関しては文字理解があり、合わせて写真も有効な様子から両方を載せて提示した。



こちらはお菓子の補充の提示。

写真を見てマッチングする狙いで作成している

結果

お茶のポットは湯気もあまり上がらなかったためか怖がらずに行えた。しかし、水をポット内のメモリまで確認して入れていたのだが用意していた水が足りておらず、協力者の方から足りないと言われて消化不良のまま進めたためか行動の際に都度受講者の方を見て確認する様子が見られ、指示なしで動けなくなってしまった。

その後

アドバイスをもらいながら一連の流れを撮影し、動画で見てもらい流れに変更している。
すると介入なくスムーズに行うことができた。

動画を見てもらい動いてもらうという想像がグループ内でもイメージを持つことができ
おらず、固定観念にとらわれていたことを痛感した。

いつの間にか自分の知っている情報だけに当てはめて～だろうとい
う気持ちになっていたこと改めて振り返ることができた

コミュニケーションの支援

次の課題は

「教えてください」

を引き出すという課題が出された。

日付のバラバラなチラシを日付順に並べてパンチで穴を開けファイリングするという作業を行ってもらうのだが、この環境を使って協力者から教えてくださいを引き出すという課題である。

チームで考えたこと

パンチとファイリングに関しては問題ないであろうという見解のため、狙いを日付順に並べることに絞ってそこで教えてくださいを引き出そうと考えた。

前回の反省を生かして日付で困る部分も撮影した動画を作成し見てもらった。
手順の流れとヘルプを出すという内容の動画である

結果

動画はみてもらい手順の流れは理解していた様子。

しかし、日付順に並べることなく穴を開け、横にいた研修者がヘルプを出す人の写真を指さしながら促したが

「大丈夫です。僕わかりますから」と言い、そのまま作業をおえてしまった

反省

予想はなんとなくしていたが確証を持てなかったためそのまま実行したが予想通りに間違えたまま作業を終える流れになってしまった。

協力者の方の自尊心を傷つけず、かつ軌道修正する難しさを実感した。
この方は一見するとヘルプ要求を出せるように見えてしまっていたが、実はそうではなく「説明」(お互いにわかっている状況をつたえること)はできるがだから～してほしいというところには至っていなかったのだ。

それが思い返すと実感できたのは、協力者の方が休憩中ipadを使っていたのだが休憩時間が終わり、ipadを返そうとしたときにいていた言葉で、「電源切れません」と言っていたのだ。

これから勘違いをしてヘルプを出していると思っていたが、これは説明であり「電源を切ってください」には至っていなかったとアドバイスを聴きながら感じた

終わりに

この後はレクリエーションを通して教えてくださいを引き出すことになった。
詳細は割愛させていただくがご本人も満足して頂いたようですっきりとして研修を終えることができた。

3日間の研修を通して、これまでの経験から固定概念にとらわれていたこと、
準備の大切さ、情報収集の仕方など改めて基礎に戻ることの大事さを思い出すことができ、自分にとって貴重な経験となった。

ぜひ今度はスタッフでも
参加したいと思える研修であった。

